

令和7年度 小松市立高等学校 学校評価(計画)

重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準
1 思考力・判断力・表現力を伸ばす等の授業改善に努めることやICTの利活用及び探究活動を充実させることで、確かな学力の育成を図るとともに、主体的に学習を進める態度を育み、協働的な学びの良さを実感させる。	1 生徒の主体的に学習を進める態度を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を推進する。	教務課 各学年	素直で真面目な生徒は多いが、授業において受け身の姿勢でいる傾向が見られる。自ら考える姿勢と積極的な取り組みを引き出せるような授業実践に向けて、より一層の工夫が必要である。	【満足度指標】 生徒が各教科・科目の授業に対して積極的に取り組もうと思っている。	授業評価の質問10「この教科・科目に積極的に取り組もうと思える」における全体の平均値が A 3.6以上 B 3.55以上 C 3.5以上 D 3.5未満
	2 「総合的な探究の時間」における個人発表やグループ発表、フィールドワーク等を通して、生徒の表現力を育成する。	教務課	昨年度授業や総合的な探究の時間における個人発表やグループ発表を通して、話したり発表したりする力がついてきたと感じる生徒は、8割程度いる。90%以上を目指すために、探究活動のさらなる充実が必要である。	【満足度指標】 総合的な探究の時間において、主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う(よくあてはまる、ややあてはまる)生徒・教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う(よくあてはまる、ややあてはまる)生徒・教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満
	3 大学入学共通テストに対応できるように、1、2年生のうちに生徒の大学進学意識を向上させ、学力の定着を目指す。また、成績上位層から中間層の生徒を増やし伸ばすべく、模試分析に基づいた授業改善を行い、学力向上を目指す。	進路指導課 1学年 2学年	1年生では、進路希望を念頭に置いて文理選択できるよう指導とともに、学力伸長に向けて継続的に努力するよう指導している。2年生では、具体的な目標を持たせ、様々な進路希望、学力層に応じた学習指導をしている。1、2年生で大学受験に対応できる基礎学力をつける必要がある。	【成果指標】 学年終了時までに組織的、系統的な指導によって学力が伸び、大学受験の基礎が築かれている。	模試による国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が 国語: A 40人以上 B 35人以上 C 30人以上 D 30人未満 数学: A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満 英語: A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満
	4 キャリア教育を通じて高い志を持たせるとともに、進路実現に向けて粘り強く学び続けるよう支援する。	進路指導課 3学年	ここ数年、大学進学希望者が増加傾向にある。コロナ禍を経て県内志向が強まっているが、全国を視野に入れて挑戦する姿勢を育てる必要がある。	【成果指標】 自らの生き方や将来に対して高い意識を持つ生徒が、授業や補習、個別指導等を通して学力を伸ばし、国公立大学に現役で合格している。	国公立大学現役合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満
2 グローバル社会に対応できる自己発信力を高める。特に英語によるコミュニケーション能力を育成し、英語力向上を図る。	1 英検資格取得に向けて、長期での継続的かつ段階的な取り組みを行う。1年次の英検に向けた単語学習の定着から、2年次の英検での上級取得、GTECのスコアアップへと繋げていく。	英語科 教務課 進路指導課	1年次は英語検定を1回、2年次は10月の実用英語技能検定と12月のGTECを受験し、生徒の資格取得に向けた英語スキルアップを低学年から行っている。生徒の進路実現に際しても英語の資格が有利に働くよう指導していきたい。	【成果指標】 実用英語技能検定およびGTECの受験を通して、2年次修了までに50%の生徒がCEFR A2レベルに到達することを目標にして、五領域のスキルアップを目指す。	2年次修了までにCEFRA2レベル以上の生徒が A 100人以上 B 80人以上 C 60人以上 D 60人未満
3 生徒一人ひとりの品格を高めるとともに規範意識と社会性を身に付けさせ、よりより集団づくりに努める。	1 品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。遅刻をなくすために、年間を通して職員による登校指導や生徒の個別指導を行う。	生徒課	制服を正しく着こなす生徒もいるが、そうではない生徒も多い。遅刻者の件数は減少傾向にあったが、一昨年より増加に転じ、昨年度はより増加した。常習的に遅刻する生徒が多い。	【成果指標】 1日の生徒の遅刻者の平均人数から判断する。	1日の生徒の遅刻者の平均人数が A 1人以下 B 3人以下 C 5人以下 D 6人以上
		生徒課		【満足度指標】 制服の着こなしに対する、教職員評価から判断する。	「生徒は制服を正しく着ている」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
4 部活動や芸術コースによる地域貢献活動を積極的に行い、小松市民に愛される学校を目指す。	1 部活動をさらに活性化し、校内外の発表やボランティア活動等に積極的に取り組む。	生徒課	部活動の発表やボランティアなどの活動は再開されており、積極的に活動に取り組んでいる。	【努力指標】 部の発表や活動を通して生徒の発信力が養われる。	すべての部による発表やボランティア活動等の実施回数が A 35回以上 B 30回以上 C 20回以上 D 20回未満
	2 芸術コース入学希望者の確保のために、本校専攻生による出身中学校訪問・部活指導等、生徒主体の情意活動を行うとともに、教員による体験入学希望者確保のため中学校訪問を行う。	芸術コース	定例行事に加え、積極的に对外行事や地域貢献活動、中学校訪問などの取り組みを増やし、芸術コースの魅力を世に発信していく。	【努力指標】 地域貢献活動や中学校訪問を通して、芸術コースからの発信力を高め、中学生の芸術コースに対する興味関心が向上している。	11月の芸術コース体験入学参加者数が A 60名以上 B 59~50名 C 49~40名 D 39名以下
5 教職員の協働する力を高め、校務の効率化を図り、心身ともに健康な職場づくりを行う。	1 授業や探究活動、ホームルーム活動での教材などの共有や作業の分担など、教職員の協働する力を高めることで業務の効率化に取り組む。	教頭	昨年度は、それぞれの授業の工夫事例などをあげて教員研修を行うことで、授業改善に取り組むことができた。今まで以上に互いに協働することで、より一層の授業改善や負担軽減ができるものと考える。	【努力指標】 教材の共有や作業の分担などにより、業務を効率的に行い、教職員の協働する力を高める。	今まで以上に教材の共有や作業の分担により、業務の効率化に取り組んでいる(よくあてはまる、ややあてはまる)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満